



# シリーズ タンチョウ

Vol. 344

鶴居村教育委員会タンチョウ自然専門員

音成邦仁

☎64-2050 / FAX64-2900

鶴居 タンチョウ

検索

## タンチョウの数かぞえ調査で286羽を確認

毎年恒例のタンチョウの数かぞえ調査（正式名はタンチョウ越冬分布調査／北海道主催）の第1回目が12月5日に実施されました。この調査は同じ日の同じ時間帯に全道各地でタンチョウを確認・記録するもので、昭和27年（1952年）から続けられています。近年では、宗谷地方や日高地方、空知地方など道東以外の地方でも確認が続いています。全道の集計結果は1月中旬に発表される予定です。

鶴居村では286羽が確認されました。この調査では、どうしても羽数の結果に目が行きがちですが、あくまでも確認できた羽数であって、当日の天気などの影響で年によるばらつきがあります。一方で特筆したいのは村における調査体制です。今回も小中学生を含む多くの村民のみなさんにご参加いただきました。インフルエンザ（人の）が猛威を振るい、小中学生の参加が例年より少なくなりましたが、それでも総勢126名が参加しました。調査地点は64ヶ所。これらの数字は「鶴の居る村」の名に恥じない全道で断トツトップ間違いなしです。

11月下旬には道道53号線を走っていてもタンチョウの姿を見かけなくなり、去年の羽数を下回るのには確実と見ていました。調査日直前になって給餌場に集まりだし、鶴見台では67羽が確認されましたが、鶴見台を含む下雪裡地区は去年より71羽減。サンクチュアリのある中雪裡地区とあわせても41羽減となりました。鳥インフルエンザの影響で給餌が見合わされ、また周辺のデントコーン畑でもコーン粒がほとんど落ちていなかったものと思われ、両地区全体では例年よりも集まりが悪かった印象です。一方で、ここ数年増加傾向の見られる支幌呂地区では去年より17羽増の27羽、一年を通じてタンチョウが暮らす下久著呂地区では同24羽増の74羽が確認されました。結果的には予想に反して去年をわずかに6羽上回りました。

鳥インフルエンザ感染のニュースが飛び交っています。給餌を控えて、密集を防げばよいという意見もありますが、事はそんなに簡単ではありません。えさ不足による栄養状態の悪化、周辺農場への依存などマイナス面も予想されます。タンチョウ、地域住民などそれぞれの立場から、改めて給餌のあり方を含めたタンチョウとの付き合い方を考える機運が高まればよいと思います。

令和5年度タンチョウ越冬分布調査集計表(第1回／村内地区別)

調査地区	調査場所数		調査人数		確認数				
	R5	前年比	R5	前年比	成鳥	幼鳥	不明	小計	前年比
1 中久著呂	2	0	2	0	4	0	0	4	0
2 下久著呂	6	△1	11	0	68	6	0	74	+24
3 茂雪裡	2	0	2	0	6	3	0	9	+5
4 支雪裡	2	+1	2	+1	4	2	0	6	+1
5 中雪裡	13	+2	14	△17	28	5	0	33	+30
6 下雪裡	18	0	49	△8	90	11	0	101	△71
7 新幌呂	2	0	2	0	2	0	0	2	0
8 上幌呂	1	0	1	0	2	0	0	2	+2
9 支幌呂	3	+1	4	+2	26	1	0	27	+17
10 茂幌呂	1	△1	1	△2	4	1	0	5	+5
11 中幌呂・中幌呂下	6	△1	20	△1	14	2	0	16	+4
12 下幌呂・温根内	8	△1	18	0	5	2	0	7	△11
合計	64	0	126	△25	253	33	0	286	+6